広報 なかわだ
第 337 号
2007 年 8 月号
中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141
http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/
平成 19 年 8 月 19 日

8、9 月の予定

主の変容	8 月 6 日
聖母被昇天	8 月 15 日
委員会	9 月 2 日
敬老祝福ミサ	9 月 16 日
ヨゼフ会例会	9 月 23 日

聖母被昇天の日、8 月 15 日に寄せて

主任司祭　小林　陽一

聖母被昇天の祝日は、すでに 7 世紀には東方教会と西方教会のほとんどの教会で祝われていました。マウリシオ皇帝時代（AD582 ～ 602 年）に、東方教会で、今のように 8 月 15 日に祝われるようになったということです。カトリック教会の中で“聖母被昇天”の祝いが定められたのは、ピオ 12 世教皇によって 1950 年（昭和 25 年）11 月 1 日に定められ、信仰すべき箇条となりました。

聖母被昇天の教えは、次のような教えです。イエス・キリストは、復活によって「罪と死の勢力であるサタンに打ち勝ち」、神のいのちに完全に生かされ、全ての人を生かす霊となられました。これによって、洗礼によってキリストに合体された人も、イエスのこの罪と死に対する勝利に与ります。ひとりひとりの信者が「死」に決定的に打ち勝つのは、神の御計画が完全に成就される「世の終わり」のときです。マリア様は、この恵みを「先取り」した形で、現にキリストの罪と死に対する決定的な勝利にあずかり、肉体も霊魂も栄光に輝き天の国に入られたのです。マリア様は、旅する神の民にとって、希望となぐさめのしるしとして輝いておられます。

中和田教会の入り口に建てられているマリア像は美しく清らかなお顔です。このマリア像のそばに一瞬たたずんでロザリオの祈りをささげましょう。マリア様は、どこの国の人からも慕われています。日本に来ている外国の信者さん達にも、マリア様はやさしいほほえみを投げかけておられます。

中和田教会では 8 月 15 日（水）午前 10 時から聖母被昇天のミサをささげる予定です。どなたもご自由にご参加いただければと願っています。

夏期学校より　（7 月 21 日）

委員会だより

〈7 月 1 日（日）9 名出席〉

■小林主任司祭あいさつ

＊横浜教区召命練成会（男子、小 5 ～中 3 対象）が、今年は 7 月 31 日（火）～ 8 月 3 日（金）裾野市不二聖心女学院山の家で行われる。小林神父様が行き返りとも引率。

＊「聖書の分ち合い」週一回 60 分平日の昼間、信者対象に計画したい。（聖書と典礼を使用して）更に、30 ～ 40 才代の人が参加できるプログラムも、併せて検討している。開始時期：7 月 21 日～ 8 月 31 日（夏休み）を除いて、実施したい。（委員会）【宣教 G を軸に検討】

＊営繕関係

◆上水道の漏れがあり、修理した。横浜市水道局より「トイレの水洗器具が老化」「業者による点検が必要ではないか」と言われた。

◆教会の裏、聖堂床下に、人（浮浪者等）が立ち入れない対策が欲しい。（不審火等の危険）（委員会）【営繕グループにて検討】

＊消防署立ち入り検査結果

◆書類等は事務グループで修正、提出。

◆消防署の指導で、泉区の火災原因上位は①放火・不審火 ②子供の火遊び ③失火。特にマリアシャトーの管理を宜しくお願いしたい。

■連絡事項：行事計画　教会学校・夏の合宿（中和田教会）

◆目的「仲良くなろう」〈神様の子どもは、助け合って仲良くなりましょう〉

◆日時 7 月 21 日（土 PM）11：00 ～ 22 日（日）AM 11：30

■審議事項

☆堅信式反省

＊6 月 10 日梅村司教をお迎えし、7 年ぶりに下記 7 名の堅信式が行われた。

・テレジアマリア森脇留美・ドミニコ石井大河・アロイジオ石井拓真・マリア・フランシスカ石原知世・ペトロ石崎雄太・イエスの聖心のラファエラ美底沙織・ジュスト武石勝未

＊堅信式・祝賀会の反省

a. 小林神父：今回の研修は、4 月 15 日より 6 月 3 日迄 7 回持ったが、出席率は 60 ～ 70 %。次回は、期間 10 ～ 8 ヶ月・月 2 回のクラスとし、信仰教育面でプラスさせたい。

b. 典礼 G：司教様と、高野神父様のご協力で、良い堅信式ができた。

c. 行事 G：祝賀会は和やかな雰囲気で、「良かった」。

☆敬老のお祝いの検討

a. 敬老のお祝い

（小林神父）中和田教会の共同体が敬老の意を表すことはキリストの意向でもあり、敬老会の準備を願いたい。（委員会）【9 月 16 日の敬老祝ミサにつき、典礼グループで「塗油の秘跡の恵み」等を、広報なかわだに掲載し、敬老祝を盛り上げたい】

b. 祝賀会・お祝い品贈呈は昨年並に。

☆「信徒の皆様が参加できる時間にミサ司式」検討

（委員会）【6 月広報のアンケート 7 月 1 日締め切った。7 月典礼委員会で審議し、9 月委員会に提案。】

（小林神父より）7 月・8 月の平日ミサは、主日のミサに来れない人のために、次の予定で行いたい。

◆7 月 6 日（金）AM 10：00 ～《初金ミサ》

◆7 月 11 日（水）PM 7：00 ～《聖ベネディクトのミサ》

◆7 月 26 日（木）AM 10：00 ～《聖アンナのミサ》

◆8 月 6 日（月）AM 10：00 ～《主の変容のミサ》

◆8 月 15 日（水）AM 10：00 ～《聖母被昇天のミサ》

＊祝日に「是非ミサに出たい人のため」アンケートを取りたい。（委員会）【典礼・事務グループで公示して、皆様にお知らせする。】

■各グループ連絡・報告事項

a. 営繕 G：ガス漏れ検知器が施設されて居ない 2 箇所に、設置する。

b. 典礼 G：聖体奉仕者研修（5 月 27 日・月 24 日終了）

管理・運営奉仕者養成コース（5・26、6・23、7・22 予定）

c. 財務 G：会計報告 – 5 月までの進捗（実績／予算）

一般会計（収入 42 %、支出 39 %）

建設会計（収入 44 %、支出 38 %）

一般会計（収入 43 %、支出 30 %）

◆教区経済問題評議会よりの、「月定献金について」パンフレットのアンケート（案）説明。（委員会）【原案で提出する。】この問題は難しいため各委員が気付いた時に、提言できるよう心掛ける。

d. 行事 G：バザーは 10 月 28 日（日）で準備中（8 月委員会開催予定）

e. 宣教 G：一粒会報告 – 10 月 8 日の一粒会大会に向けた準備打合せが、7 月 8 日 14：00 ～中和田教会で行われる。

◆中学生夏季合宿 – 開催時期等検討中

◆「司教教書」新たな宣教司牧評議会と地区宣教司牧委員会をまとめた。

f. 事務 G：消防署建物検査（6 月 7 日）終了。消防隊編成替え。

07 年 7 月 委員会後記　小野委員長

■ 7 月 21 日～ 22 日に教会学校の下記合宿が行われ、多くの小学生の皆さんが参加して無事終了しました。要理関係の皆様ならびにご父兄の皆様の絶大なご奉仕に深く感謝申し上げるとともに、豊かなお恵みを頂いた喜びを分ち合いたいと思います。

7 月 29 日の主日ミサ説教で小林神父様が述べておられた通り、この夏期合宿の経験は、参加した小学生の皆さんの記憶に深く刻み込まれて、末永く楽しい、そして懐かしい思い出となることでしょう。　神に感謝。

■福祉グループが活動開始に先立って、メンバーになって下さる皆様を募っています。　既に応募されておられる方々もいらっしゃいますが、より多くの方々に深く関心をもって頂き、いろいろな角度から参画頂きたく思います。　活動の内容もこれから模索していく段階であり、「そもそも福祉とは何か」から考えていかねばなりません。　福祉という言葉の意味する範囲は広く、また受け取り方も個人個人で違います。　いろいろな考え方がありますが、まずは「出来ることから、それも身近なことからやっていく」という姿勢で臨みたく思います。

■ 3 回にわたって行われた横浜教区主催の「管理・運営奉仕者養成コース」という研修に参加してきました。　そのなかで、実際に小教区で抱えている課題の分ち合いの議論がありましたが、多くの課題のなかで★「未信者の方が教会に入りやすい環境の整備」というテーマがありました。　教会の規模によっても対応が異なるでしょうし、教会それぞれが異なる歴史を歩んでいることもあって、単一の共通指針みたいな手法は無いと思いますが、常に考えていかねばならない課題だと思います。　是非、小林神父様を中心に議論を深めていきたいと思います。

堅信を受けた７人の皆さんの感想（６月10日）

「神様に近づく」　石井　大河

僕は、堅信を受けて、また少しだけど神様に近づけたと思います。なぜならば、神様についてたくさん勉強し、神様のことを理解しようとしたからです。

けれども、まだ分からないこともたくさんあります。だから、もっともっと勉強し、もっと神様に近づけるようになりたいです。

「堅信を受けて」　石井　拓真

堅信を受ける一ケ月ほど前から勉強をしました。いろいろ難しかったし、大変でした。堅信式では、司教様が来てミサをあげてくださいました。堅信を受けて、少し神様に近づいた気がしました。

司教様、小林神父様、高野神父様、そして教会の皆様、いろいろお手伝いをしてくださってありがとうございました。

「堅信を受けて思ったこと」　石崎　雄太

僕は堅信を受けるために、「神様がどういう人なのか」「自分は神様へどういう思いなのか」という、毎週日曜日に高野神父様からファックスで送られてくる課題の内容が、頭の中で分かっていても、答えられないくらい難しかったです。僕は野球の練習で全ての勉強会には出席することができませんでしたが、小林神父様の励ましの言葉をいただいてがんばることが出来ました。堅信式当日は、司教様と高野神父様、小林神父様がミサをあげてくださいました。そして、堅信式が終わった後、司教様から励ましの言葉をいただいて勇気付けられました。今回、堅信を受けて、中和田教会の一人の信者になれたと思います。

「貴重な体験ができた勉強会」　石原　知世

私は初め，堅信というものは何かをよく理解できませんでした。堅信を受ける理由も、「堅信というものがどのようなものか知りたかったから」というあまり堅信を受けた先の事などは考えず、ただ興味半分で…というものでした。

堅信の勉強を始め，最初のうちは答えることが出来た質問も、どんどん勉強を重ねるにつれ，次第に何と答えればいいのかわからなくなってきました。それと同時に、これを答えたら何が分かるんだという疑問が生まれてきました。そこで私は共通点を見つけました。それは「神父様が出して下さって私たちが今まで悩んでいた質問には１つの正しい答えがない」という事。次に「自分が出した答えから発展させる事が出来る」という事です。勉強会で自分なりにいろいろ考えて、人と話し、意見を交え、新しい考えを理解し合う。私は堅信の勉強をしながら自然にこのような事を繰り返していたのです。戸惑い、疲れながらも、その中に楽しさを感じられたのはこの繰り返しのおかげだと思います。

私は勉強会で様々な事を学びました。一番印象に残っているのは、「水に話しかけた時の結晶の変化から言葉の持つ力を考える」というものでした。今でも不思議で仕方ありません。

そんな不思議な経験をたくさんして、私たちは堅信式迎えました。何故か晴れ晴れしい気分でとても嬉しかったです。

私は先ほども述べた通り、堅信式の時間もとても嬉しく、印象強かったですが、それよりも友達や神父様、お母さん方、教会の皆さんに支えられ成り立った、学ぶことの出来た数日にも及ぶ勉強会の方が、自分にとってとても貴重な体験となったと思います。

最後に、私たちを支えて下さったみなさま本当にありがとうございました。

「堅信式を終えて」　武石　勝未

今回の堅信式は、私にとって色々と貴重な経験とよい意味での刺激を受けたと思っています。何故かというと、約一ヶ月にわたって神父様からマンツーマンによる指導をして頂いたことは、私にとって貴重な経験でした。そのことについては、神父様には大変感謝しております。

それに、私は来年の春には社会人になります。神父様から学んだことをどう活かしていくかが、これからの私にとっての課題だと思っています。そして、いつまでも新鮮な気持で物事に取り組んでいきたいと思います。

「堅信式を迎えて」　美底　沙織

司教様をお迎えしての日曜日、私はいつもと違った気持ちで教会へ向かいました。「聖霊が今日私たちに下るのだ。」そう考えると、とても嬉しくて、胸がいっぱいになるほどでした。

私達、堅信グループは、約７週間、その日のために勉強をしてきました。勉強の内容はどれも考えさせられるものでしたが、高野神父様や小林神父様、リーダーたちが一生懸命に指導してくださり、また、みんなでそれを分かち合うことで勉強の内容を理解してきました。そして、やっと堅信式を迎えることができたのです。

司教様が私の額に十字をきった瞬間、私は言い表せないような不思議な気持ちになりました。でも、言うのであれば、初めて赦しの秘蹟を受けた後のあの淡いオレンジ色のようなあたたかいものを感じたのです。そこで私は神様からのパワー（聖霊）をもらったのです。

また、中和田教会の皆様方からの祝福の言葉を聞く度に、いろいろな人からの支えや祈りがあっての堅信式であったことを改めて感じました。本当にありがとうございました。これからもお祈りください。よろしくお願いします。

「ひとつ」　森脇　留美

（『ひとつ』になるためには、『愛し合う』ことが必要なんだね。）堅信に向けて勉強しはじめ、ついに最後の勉強会がやって来た。神様（イエス様）が言う『ひとつ』という意味。三位一体のことについての話だった。

私達が使う「ひとつ」は「一つである」という数の状態のことなども指すが、父と子と聖霊が一つと言う時は、「ひとつである」ではなく、『一つになる。なり続ける』という意味だと、先生、神父様は話してくれた。つまり、私達が使う時、１＋１＋１＝３になるが、イエス様の『ひとつ』は、１＋１＋１＝１ということになる。だから、『ひとつ』は愛なのだ。ひとつになり続けるもの・・・愛。私の心にしっかりとしみついたこの言葉は、今も、すべての人の中で輝き続けているのだろう。

私達が堅信を受けることができたのは、みんなが一つだったから。みんなの一つの愛があったから。そのことを考え、うれしい！と感じるという神様からの一つのお恵みを私達はもらいました。なによりも、神様の愛を伝えること、信じるという使命を、今、私達は神様から与えられたのです。このことを心にとめて、これからの道を歩んでいきたいと思います。

平成19年9月16日 教会の敬老の日を迎えるにあたって

中和田カトリック教会典礼グループ（文責　竹内）

７月の教会委員会で、今年の敬老会行事の取り組みが話し合われました。いつでしたか教会のご長老の方々から、信徒もこれから一様に高齢化して行くのだから、あまりかまわずにとのご意見を頂きました。ご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

委員会としてそのご発言の真意は、あくまで教会財政の逼迫をおもんぱかってのご意見と推察いたしました。当然ながら敬老会の実施にあたっては、お心に添えるよう運営に一工夫いたします。

＜皆様で敬老、祝福のごミサを捧げ、ご高齢者に「塗油の秘跡」のお恵みを＞

【教会の敬老会】について小林神父様は、次のようなお考えを述べておられます。ご高齢の信者さんに中和田教会の共同体が、敬老の意を表すのはキリストの意向として正しいことであります。教会をこれまで長く支えて祈ってきて下さったご年輩の信者さん、家庭会社、地域、そして横浜教区をも支え、犠牲を払ってきたご年輩の信者さんに中和田の教会共同体として、是非とも敬老会を開催し感謝すべきと思います。

幸いなことに今年も敬老の祝福ごミサのなかで、「塗油の秘跡」が施されます。小林神父様のご意向と私たちの願望が結ばれたことを感謝いたします。

ではこれらのお恵みと喜びを味わうとき、秘跡の素晴らしさを振り返って見ましょう。

2002 年 10 月に発行された横浜教区報第 46 号の典礼コーナーにあります、「病者を支える秘跡」について解説がございます。抜粋して記載いたしましょう。

- 病気、老齢などのため死の危険に陥ったとき、あるいは大きな手術を受ける前などに、教会は病者に「塗油の秘跡」を授けます。罪の赦し、病人の救いと健康の回復、主の受難と死に合わせることのできる恵みを祈ります。
- 死期の迫った重病ではない場合にも病者は「塗油の秘跡」を受けることができます。精神的な支えと安らぎ、健康の回復の恵みのため。
- 高齢のために体力が衰えてきた人は、重大な病気の診断がなされなくてもこの秘跡を受けることができます。最近、「敬老の日」を中心に、共同体の捧げるミサのなかで高齢者に「塗油の秘跡」を授ける教会が増えてきました。寝たきりの状態でなければ、共同体の集いと祈りのうちにこの秘跡を受けることは望ましいことです。
- 「塗油の秘跡」は一回しか受けられない秘跡ではありません。この秘跡を受けた後で健康を回復、再び悪化。あるいは同じ病気が長引いて容態が悪化した場合、繰り返しこの秘跡を受けることができます。

「聖体の秘跡」 ～病者を支える秘跡～　教会に来られない病者のためには訪問授与。
「塗油の秘跡」 ～病者に安らぎを与える秘跡～